



2020年12月22日

関係者 各位

一般財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会

2021年度国内競技規則（モトクロス）変更点のお知らせ

コロナ禍の影響、また時代の変革とともに様々なスポーツやイベントの趣向が大きく変革をしておりますが、2021年度MFJ全日本モトクロス選手権シリーズもこれまでの運営体制を刷新し大きく生まれ変わります。また、MFJの公認・承認するすべてのモトクロス競技会に関する競技国内競技規則についても変更点がありますので、2021年度の国内競技規則書（12月25日発行予定）と合わせてご確認ください。

<主な変更点（項目）>

1. 全日本選手権シリーズ、全戦統一の組織による運営
2. ポイントスケールとグランプリポイントの変更
3. 全日本選手権シリーズにおけるゼッケン制度の変更
4. 全日本選手権シリーズにおける背中ゼッケンの義務解除
5. 全日本選手権シリーズにおけるプロテクター着用義務化（予告）
6. 特別昇格の規則改訂（制度廃止）について
7. その他競技規則・技術規則の変更点

1. 全日本選手権シリーズ、全戦統一の組織による運営

全日本モトクロス選手権シリーズを統一運営する組織を立ち上げます。全戦統一のメンバーで構成する運営チームと各地区の競技役員の皆様が協力し、全日本シリーズ全戦を通して安全面や技術面、競技面での平準化を狙います。また、シリーズを通じた効率的な広報・集客等、ならびにインターネットでの動画配信などを行い、メジャースポーツ化を目指した活動を強化していきます。

運営委託先：Moto Sports Promotion

2. ポイントスケールとグランプリポイントの変更

ポイント獲得者の人数を絞り、優勝ライダーの優位性をより高めるために、MotoGP™で採用されているポイントスケールを新たに採用します。このスケールは全日本モトクロス選手権シリーズだけでなく、地方モトクロス選手権シリーズや他種目でも同一に採用され、「日本のモーターサイクルスポーツにおけるポイントスケールの標準」として運用させていただきます。

また、これに伴いまして、MFJ-GPにおけるグランプリポイントを、これまでの +5点 から、**全種目一律で +3点** とさせていただきます。

次ページ：新ポイントスケール

<新ポイントスケール>

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位	13位	14位	15位
得点	25	20	16	13	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

※決勝出走台数が2台以上で成立（1台以下は不成立）。

※ポイントは完走者に対してのみ与えられる。

※「完走者」とは優勝者の75%（小数点以下切り捨て）以上の周回数を完了したものをさす。

3. 全日本選手権シリーズにおけるゼッケン制度の変更

全日本選手権シリーズにおいて、だれが通常速いライダーなのかをわかりやすく、ライダーにスポットライトが当たるようにすること、オートバイのレースを知らない新規ファン獲得の一助とすることを目的に、希望ゼッケン制度を廃止し、以下のとおりゼッケン番号とベースカラーが変更となりました。

●年間指定ゼッケンの登録方法

IA1 : IA1 クラス前年度ランキング順で#1 より指定ゼッケンとする。

IA2 : IA2 クラス前年度ランキング順で#1 より指定ゼッケンとする。

レディース : レディースクラス前年度ランキング順で#1 より指定ゼッケンとする。

※IBOPEN … IA への昇格者を除くランキング順に1番から指定ゼッケンとする。(これまでと同様)

※年間指定ゼッケンを持たないライダーは、シーズン初めのエントリー時に与えられたゼッケンを年間指定ゼッケンとする。

●ゼッケンカラーについて

IA1 : 白地に黒文字 ゼッケン1～10は赤地に白文字ゼッケンのカラーを採用。

IA2 : 黒地に白文字 //

レディース : 白地に黒文字 //

IB : 紺地に白文字

※IBOPEN クラスは、前年度の1～10位がIAへ昇格する為、赤字に白文字ゼッケンは使用しない。

4. 全日本選手権シリーズにおける背中ゼッケンの義務解除

ジャージへのゼッケン番号の印字によるコストと作業期間が負担になっているライダーが存在することから、公式練習・予選・決勝レースにおいてジャージまたはプロテクター背中側のゼッケンは表示しなくてもよいこととしました。

ただし、ゼッケン番号を表示する場合は、タイム計測や事故・違反発生の際に目視で間違われる可能性もあることから、必ず車体のゼッケンと一致していなくてはならないことを条件とさせていただきます。

5. 全日本選手権シリーズにおけるプロテクター着用義務化（予告）

モトクロス競技の安全性を確保するため、2022年より全日本選手権シリーズにおけるバックプロテクターとチェストガードの装備を義務付けることと致します。

※2021年は予告のみです。

22年からの義務化に向けて、2021年全日本選手権に参戦されるライダーの皆様には、プロテクターを着用していただきますよう推奨いたします。また、今後地方選手権や承認競技会に関しても着用の義務化を目指しており、モトクロス競技に参加するライダーの皆様には、ご自身の身を守るプロテクターを着用して頂くようお願いいたします。

[予告]

2022年から全日本選手権のIA1・IA2・IBOPEN・レディースクラスに出場するライダーは、バックプロテクター・チェストガード（ブレストガード）の装備が義務付けられる。

バックプロテクター・チェストガード（ブレストガード）は硬質の樹脂製であること。内側には衝撃緩衝効果のある素材が取り付けられていることが望ましい。

CE規格・EN1621-2[Level1 または Level2]適合品のバックプロテクターおよび EN1621-3level1 または Level2]適合品のチェストガードを使用する場合は、硬質の樹脂製でなくても使用が認められる。

バックプロテクターおよびチェストガード（ブレストガード）はジャージの上に着用しても、ジャージの下に着用しても良い。

6. 特別昇格の規則改訂（制度廃止）について

従来のスポーツ精神に則り原点に回帰し、各地域の選手権シリーズに出場しポイントを重ね、規則に沿った昇格制度で会員の皆様にライセンス昇格を行っていただく為、「特別昇格」の制度を廃止します。世界選手権参戦で優秀な成績を収める等の理由により該当クラスに適合しないとモトクロス委員会が判断する場合を除き、ポイントが不足している等の理由による特例昇格の制度を止め、規定通りの昇格基準を遵守して頂きます。

付則1 6-11 モトクロス委員会指名昇格

モトクロス委員会から指名された者は、昇格が義務付けられる。この通知は別途対象者に通知される。

11 特別昇格およびその手続き

2021年度から特別昇格制度は廃止された。

7. その他競技規則・技術規則の変更点

(1) 付則 15 モトクロス競技規則 32「レース中の違反行為に対する罰則」に以下を追加

32-2-8 公式練習、公式予選、サイティングラップを含む決勝レース・決勝ヒート中にライダーが外部との電波を発する機器（無線機・携帯電話・ブルートゥース等）による通信を行った場合は、罰則が科せられる。

(2) 付則 18 国内モトクロスの仕様 7-2「下記部品は一部において改造、変更が許可される。」に追加

7-2-11 ラジエターおよびウォーターホース

7-2-11-1 ラジエターの改造、変更が許可される。ただし、公認車両の取り付け位置を変更または改造せずに、ボルト・オンで取り付けられる（ステーの追加、変更は許可される）構造であること。

7-2-11-2 ウォーターホースの変更が許可される。ただし、ホースは耐熱性であること。ホースの取り付け（締め付け）方法は公認車両と同じでなければならない。

(3) [付則 18-2] 50cc クラスの仕様について 「下記以外の改造、変更は認められない。」の修正

4-1 タイヤ（フロント／リア）

4-1-1 ただし、タイヤサイズは公認車両のホイールに装着できるものでなければならない。タイヤサイズならびに使用ブランド（タイヤメーカー）は自由とするが、当該車両のメーカー製造状態で取り付けられているホイールを改造、変更せずに装着できるものであること。

以上、私ども一般財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会は、モトクロスを健全なスポーツとしてメジャー化を目指し努力していく所存でございます。

皆様のご理解とご協力のほど、今後とも何卒よろしくお願いいたします。

(一財) 日本モーターサイクルスポーツ協会 (MFJ)

MFJ モトクロス委員会